

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都リサーチパーク10号館

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
床:タイルカーペット、天井:ロックウール化粧吸音板を使用										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ソーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
GHP(冷暖同時型)を採用										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
喫煙室として天井裏を含め完全に区画										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観(天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
①~③、⑥~⑩に該当										
③、⑥~⑩、⑫に該当										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
ECPの標準耐用年数=60年										
屋外露出、厨房、高温系ダクトにガルバリウムダクトを採用										
給水管:B、排水管:B、冷媒管:C										

2.4 信頼性				重要系統は非発・CGSから電源供給、重要室は空調二重化 節水機器、緊急排水槽、雨水利用を採用 非常用発電機の設置、重要系の幹線2系統化、受変電設備の屋上設置 基幹・防災設備(受変電・発電・熱源・給水・排煙・消火)はS 光及びメタルケーブルの引込、引込の2ルート化、MDFの2階設置	4.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20	-	-	
3	電気設備				4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			基準階階高=4.1m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率=(298.22m+114.21m)/3,746.82㎡=0.11 事務室(一般部)4.9kN/㎡、(重荷重部)9.8kN/㎡	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	美観形成地区の認定を受けている	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)	地域産木材を使用し、見通しの良い路地、ピロティ空間を計画	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m = 0.94	3.4	0.20	-	-	3.4
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	建物中央の「エコポイド」による採光、自然換気	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.86	2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護					3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水				節水型便器、擬音装置の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	雨水利用設備を設置	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.0	0.60	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産木材、タイルカーペット、人工木デッキ	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	木材使用箇所は、「木リブ」のみで、地域産認証木材による	5.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	OAフロア、乾式工法による解体が容易な間仕切り壁	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				接着剤(ビニル床シート用、タイル用)、シーリング材(サッシ用、ガラス用)	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				評価対象=120.35、参照値=135.16	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			駐輪場、駐車場(荷捌き含む)の設置、動線にも配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.33	-	-	
2	振動				3.0	0.33	-	-	
3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリスト、ガイドラインの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素量削減に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる